

地域づくりレポーター < 05 - 8 ~ 9月度レポート >

テーマ：河川に関する意見

報告者：黒沼貞志

今回の指定テーマは上記のようになっております。

ご依頼文の中の「最上川や赤川について、愛護・美化・利用など・・・」というセッションから記憶を紐解いてレポート致します。

レポートのテーマは「赤川の自然蘇生への取り組みのその後」と致します。

まず、最初に関連新聞記事を添付しますがこの記事は04年3月の山形新聞の切抜きです。

掲載の趣旨は「間伐材活用による漁礁設置で赤川の自然蘇生への取り組み事例紹介」と読取れます。

また、この漁礁は鶴岡のNPOが提案したとありこのNPOと貴省の連携・協働による試験設置と理解しておりました。

また、提案されたアイデア・技術ノウハウはNPOで保有されていると推察しております。

このような事例は地域NPOと国土交通省の連携事業の好事例と考えておりますので、その成果にも関心を持っておりました。

その後、本件に関する新聞などでの情報は見かけておりませんので、次の点について本事業に関する情報を可能な範囲にてお知らせ戴けますと有り難いです。

1. NPOのアイデア・技術ノウハウ活用のスキーム：

この提案アイデア・技術ノウハウの知的所有権（NPOが保有？）に対する国土交通省殿の対応・方針についてご教示願います。

2. 試験設置事業のスキーム：

事業主体者は貴省かと思いますがNPOはどのような形で事業に関わったのでしょうか？
つまり、ただの技術ノウハウ提供のみか、漁礁製作・設置・設置後の効果検証などへの協力がなされているかなど・・・です。

3. 事業の実施のその後の経過：

試験設置後1年半経過しておりますが、その効果の検証（モニタリング）はどのようになされていきますか？

つまり、誰が、どのように調査し、その結果（漁礁設置前後の環境評価）は情報としてどのように纏まり、且つ、公表されているのでしょうか。

以上